

商・新島ゼミ 福島県のクラフトビールメーカーとコラボ

余剰ホップを有効活用 2商品を開発し販売中



バスソルト「Hoppuro」 ▲ヘアオイル「ホップHAIR OIL」

方針転換。香りの豊かさ... 持続時間にこだわり、ホップ、ベルガモット、レモングラスがさわやかに香る商品に仕上げた。

商学部の新島裕基ゼミが、福島県のクラフトビ...

「流通・マーケティングと環境政策」。学外での活動も盛んで、企業や行政と協力しながら、循環経済やサステナビリティをキーワードとした商品・サービスの企画にも取り組んでいる。

新島ゼミの研究テーマは「流通・マーケティングと環境政策」。

商品開発に取り組んだ新島ゼミの7人



商品としてバスソルトに... 企画・開発に挑んだ。商品化にあたって壁となったのがコストの問題。ホップ精油の配合量

増やすと費用がかさむため、香り、効果、使用感のバランスを考えながら試作を重ね、原材料の最適な配合比率を探った。

生田キャンパスで花火鑑賞会



絶好のロケーションからの花火鑑賞

親睦を深める学生や留学生

9月21日、東京都調布市で開催された「調布花火2024」の鑑賞会が生田キャンパス10号館であり、600人を超える学生や教職員らでにぎわった。

生田キャンパスは高台にあるため、多摩川を挟んだ対岸で行われる花火大会の鑑賞には絶好のロケーション。浴衣姿の学生も多くみられた。

色あざやかな花火が夜空に次々と打ち上げられると、会場からは大きな歓声と拍手が湧きあがり、サークル仲間や友人と一緒に夏期休暇最後の週末を満喫した。

参加した学生からは「花火会場よりも混雑しておらず快適だった」「花火もきれいに見え大満足」とのコメントが寄せられた。

田村さん(院文修1)が大学院生賞

日本語教育国際研究大会

大学院文学研究科日本語日本文学専攻の田村エリカさん(院文修1)が、8月、アメリカで開催された日本語教育国際研究大会で大学院生賞を受賞した。

世界各国の研究者、実践者、学生などが集まる日本語教育分野では最大規模の国際大会。コロナ禍を経て6年ぶりに対面で開催され、15カ国から約50人が参加した。

田村さんの専門は音声学。国際コミュニケーション



ラクターのように高い声... 大会では卒業論文をベースに、アニメの影響を受けた日本語学習者の音声学的観点から研究を始めた。

初めの国際研究発表の場は「すごいプレッシャーだったけど、自分では気づかない点をたくさん指摘してもらい、新たな目標ができた。

最後に活動を通じての気づきを参加者それぞれが述べた。話すときには視線を合わせることで大事。「少人数でやりとりする場合は、話をリードする人、情報をまとめる人など、役割があるほうがコミュニケーションを形成しやすい」などの意見があがっていた。

JLCC・BCLプログラムの参加者



外国人のための日本語対象とした「日本理解B習得プログラム(秋期日CL)プログラム」が9月にスタートした。留学生23人は、12月13日までの約3カ月間、生田キャンパスの国際交流会館で専大生と生活しながら、日本語や日本の文化・歴史、ビジネスなどを学ぶ。

JLCC・BCLプログラム始まる

定されており、いろいろなカタチで日本に触れ、理解を深めていく。24日の開講式で、奥村経世国際交流センター長は「日本語を上達させ、友達をたくさん作り、日本を大好きになってほしい」と激励。その後の歓迎会にはキャンパスアシスタントら専大生も参加し、和やかに交流した。

楽しみながらコミュ力UP



協力して謎解きに挑む参加者

しさを経験して、コミュニケーションのあり方やメンバーとの相互関係に気づいてほしい」と目的を説明。謎解きゲームを通じて、チームビルディングや情報のやりとりなどを実践した。

ゲームや会話を通じて参加者同士でコミュニケーションがとれるように工夫した学生相談室主催の「楽しみながらコミュ力UP」講座が8月5日、神田キャンパスで1が「チームワークの楽